

たましひを育みますと聳えたつ

蔵王のやまの朝雪げむり

湯の歌碑⑩

〈出典〉小園（昭和一九年）

〈場所〉和歌の宿 わかまつや

【意味】人々の精神力を育むと言っているかのように厳かに聳えたつて
いる蔵王の山の朝。風が強く、雪げむりがおこっている。

【感想】「たましひを育みますと聳えたつ」の部分から、茂吉は蔵王の
山を人間の精神力を育てる厳しい山だという認識を持っていることがわ
かる。蔵王に親しんできた茂吉ならではの表現だと思った。



《僕の蔵王短歌》

沼と木々山一番を競い合う動かぬ青と動く緑と

二年 小宮山 龍斗

〔蔵王のおすすめ〕

スキー場。広い。どんな
レベルの人でも楽しめる。